

2019 年度自己評価結果公表シート

作成 幼保連携型認定こども園 いずみがおか幼稚園

1、本園の教育目標

温かく安らぐ生活の中で、豊かな感性、好奇心、思考力の基礎を培う

【望ましい子ども像】

- ・健康な生活の仕方を身につけ、自分のことを自分でしようとする子ども
- ・自分を大切に、友達も大切にする子ども
- ・よく見、よく聞き、よく考える子ども
- ・感じたことを豊かに表現し、自分らしくのびのび生活する子ども
- ・ちがいを受け入れ共に育ちあう子ども
- ・心をうごかし、やってみようとする子ども

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・いずみがおか幼稚園が大切にする「子どもがまんなか」の保育について、兼任・専任教職員と共にカンファレンスや、日々の保育の振り返りを丁寧に行うことで、教育理念の共通理解、意識化につなげる。
- ・一人一人が安心して、自分の力を出し充実感、達成感を味わい生活できる環境の見直しを行う。合理的配慮とユニバーサルデザインに基づいた保育環境、保育内容、行事の在り方を考え、主体的・積極的に活動したくなる環境を探る。

(教育及び保育の内容の概要)

- ・0歳児 快適に過ごせる環境と、園と家庭との一貫した生活のリズムの中で情緒の安定と感覚の働きを豊かにする。
- ・1歳児 自我の芽生え・人への信頼感をはぐくむ。
- ・2歳児 食事・睡眠・排泄・着脱など自分でしようとする意欲を育てる。
- ・3歳児 幼稚園の環境に慣れ、気の合う友達の中で、自分の思いを出しながら楽しく過ごす。(2歳からの進級児)
幼稚園の環境に慣れ、好きな遊びを見つけて楽しく過ごせるようにする。(新入園児)
- ・4歳児 友達と思いを伝えあって遊ぶ楽しさを味わえるようにする。(進級児)
自分の好きな遊びを見つけて、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わえるようにする。
- ・5歳児 友達と心や力を合わせて熱中し、充実感が味わえるようにする。

【研究成果】

「続・子どもが主体的に活動できる保育環境を考える」

(1)「幼保連携型認定こども園としての保育・教育」

- ①月案を見ながら週案会議を行い保育指導案につなげることの意識を高くもつようにしてきた。新任2名と共に保育教諭間で活発な振り返りや子どもの姿の情報共有を行ったことが、子どもの予想される活動、保育準備、教職員間の連携がとれ、保育がゆとりあるものにつながってきた。
- ②2号、3号認定の子どもが増えている中、子どもをとりまく家庭環境、生活時間もさまざまであり、各家庭状況に応じた子どもの受入れを行ってきた。「子どもがまんなか」となる家庭での生活時間を保護者に意識してもらえるよう、個別に話をしてきた。

(2)「園児の生活の充実として」

- ①昨年度に引き続き、コーナー保育の環境見直しを行った。1・2歳児もコーナーを充実させたことで、友だちとのかかわり、自分たちで遊びだすという姿が多く見られた。また、教材研究も行ったことで、子どもが意欲的に遊びにかかわり目標をもち遊ぶ姿が見られた。
- ②昨年度のECEQ公開保育の経験より、今年度もクラスの課題を明確にし、教職員間でいろいろな意見を出しながら、課題解決に向けて保育計画を立て保育を進めてきた。それぞれが保育を振り返り記録をまとめ研誌「あしあとXXⅢ」を刊行。

3、評価項目の達成及び取組状況

- (1) OPARK(リーダーシップ・スケール)を受ける。カリキュラムマネージメントにおいてこれまで以上に意識し保育実践の質の向上に向けて保育記録を活用した。また、同僚間での振り返り実践を積極的に行ってきたことで専門性の向上を促す学び合いとなった。
- (2) 堺市発達巡回相談事業の実施、訪問支援事業の訪問支援員とのカンファレンス、また、支援や療育方法について共に検討し、的確なアドバイスを受け「個別指導計画」を作成した。また、地域及び行政機関、小学校と連携を深めた。
- (3) 三原台中学校区、中学校、小学校、こども園、幼稚園、保健センターの「みんなく」(眠育)についての取り組みが7年目となり、眠育絵本No.2、眠育紙芝居の企画・作成に取り掛かり始めた。
- (4) 堺市スタンダードカリキュラムワーキングチームに参加し、堺市独自のスタンダードカリキュラムの作成に携わった後、昨年に引き続き幼児教育堺スタンダードカリキュラムの普及・啓発のための研修会に参加し、他園と保育の情報交換を行うことで自園の保育を見直す良い機会となった。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

クラス課題や自己課題を明確に上げて文書化し、職員間で共通理解したことで、声を掛け合って課題についての解決方法を共に考えられてきた。それぞれが学期ごとに自己点検、自己評価にかかわる自己申告票で自己の努力目標を立て、目標達成状況を記述し、次への課題を掲げ、日々の保育に生かしてきた。

5、今後取り組むべき課題(令和2年度計画)

課 題	具体的な取り組み方法
【教育課題】 ・新型コロナウイルスと共存、新しい生活を行う中で、一人一人が安心して、自分の力を出し充実感、達成感を味わい生活する。	・新型コロナウイルス感染防止についての各家庭の多様な考え方を受け止め、柔軟に対応し保護者や子どもの安心につなげる。 ・新学年のスタート時期が新型コロナウイルスの影響で遅れたことを考慮しながら、今年度ならではの教育課程を作成し、コロナ禍でも、出来る限り今までと同様な豊かな体験や経験が出来るよう計画する。
【研究課題】 ・「したい！」から「しゅたい！」(主体)的な活動につながる保育環境を考える。	・「子どもの遊びの見とり」について園内研修を積み重ねる。写真を用いて研究をする中で保育環境構成について教師の意図と実際の子どもの活動を合わせて話し合う。子どもの主体性について教師それぞれの見とりの視点や保育内容を知り、実践に活かせるようにする。

6、学校関係者評価

学校関係者評価の取り組み	・学園の短大付属幼稚園の一つとして学園内で事業実績の報告を行い理事会・評議委員会で諮問・評価を受けている。また、園単独での地域や保護者による評価も受けている。 ・継続して三原台中学校区地域連携の一環で「眠育」の推進、実践を行い園での取り組みを地域各地で発表。 ・地域小中学校や堺市公立・私立幼稚園と、新型コロナウイルスに関する情報交換を行い感染防止策や保育・行事の在り方を見直し検討している。 ・園周辺をマラソンする際、事故予防の観点から見守りの人数増員の指導を受け、交通整備により力を入れて行うようにした。 ・本園の新型コロナウイルス感染防止策について、保護者それぞれの立場からの要望があったが、園として大切にしたいことを詳しく配布物に記しさらに、リアルタイムにメール配信を行うことで理解につなげている。
--------------	---

- 7、財務状況 公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。